

(社)シャンティ国際ボランティア会カンボジア事務所
スラム事業計画書(2009年～2011年)

1. 事業名

スラムの子どもたち

2. 対象地域の教育状況

(1)所在地

1-1. トロペアン・アンチャンスラム(カウンターパート: トロペアン・アンチャン小学校) プノンペン中心部より 22 km離れた場所に位置し、プノンペン市、ダンカオ区、トロペアン・クロサン町、トロペアン・アンチャン村にある。

1-2. プノンペン市内の貧困スラム 10カ所

・ <<選定基準>>

①最貧困スラム

- ・ 子どもの置かれている状況(就学率、教育へのアクセス)
- ・ 世帯収入が低い

②スラムとの協力体制

- ・ スラム住民の活動への理解と協力姿勢

※約 700箇所あるスラムのうち、50カ所を調査し、2008年度の活動対象地として 20カ所のスラムを選定。2009年度以降も、今年度対象 20カ所のうち引き続き 8カ所のスラムを対象地域として支援する予定。残りの 2カ所スラムについては、上記の選定基準を元に、今年度対象地域以外のスラムも含め調査し、選定作業を行う。

選定済みスラム

- ① アンロンカガーンスラム
- ② ローカー・コックスラム
- ③ アンドンスラム(旧バサックスラム住民の強制移転地)
- ④ チャンボック・トムスラム
- ⑤ ブン・トムプンスラム
- ⑥ トゥール・チェイスラム
- ⑦ アピワット・ミンチェイスラム
- ⑧ トロペアン・アンチャンスラム

(2)背景

2-1. トロペアン・アンチャンスラムの住民のうち 710世帯は 2006年 5月 3日 8時 30分にソンボックスラムから強制移転させられてきた。現在は 541世帯が生活をしているが、市内からも遠く働き口がないため経済的に困窮している。

2-2. 貧困スラム 10カ所に生活する世帯の多くが、10-15年前くらいからスパイリエン、プレイベン、バタンバン、コンポンチャム、タケオなど地方から移り住んできている。現在もなお、経済的に厳しい生活を強いられている。

(3)教育状況

3-1. トロペアン・アンチャンスラム

① トロペアン・アンチャンスラム全体の教育状況

- ・ スラムの中にトロペアン・アンチャン小学校(公立 1-6年生 2部生)があり、スラムに住む小学生 259名が通っている(ソンボックスラム強制退去後、スラムの土地を購入した企業が、土地を買い、同学校を 2006年 7月に 5教室の学校を建設)
- ・ 韓国のキリスト経団体が運営する学校(私立)があり、スラムに住む小学生 1-4年生約 100名が通っているが改宗を目的とした教育が行われている。
- ・ 衛生状態が悪いため、50%以上の子どもの健康状態が悪い(生活用水は給水タンク、水がめから。

給水タンクからの水は 1 キロ 1.2ドル)

② トロペアン・アンチャン小学校における教育状況

- 2006-2007 年度の就学率 72%
- 2007-2008 年度の 1 学期には 212 名が登録をしたものの、20%の児童が退学している。その理由として、貧困家庭であるため継続して学校へ通うことができず、家族で職を求めて移動していることが大きい。2 学期には、259 名の児童が登録しており、数字上登録者数が増加している理由は、100 世帯が新しくスラムに移転してきたためである。
- 学校の設備・教材が不十分(水周り整備、教材、図書、文具の不足)
- 先生の定着率の悪さ: 今年 6 月現在教員 6 名のうち 3 名が経済的理由で辞職届を教育局に提出(市内から通勤しているため、交通費がかかる。スラムでは塾や補習などでアルバイトをすることが出来ないため、教員の多くが授業後バイクタクシー運転手として働き、収入を得て、生計を立てている)

3-2. 貧困スラム 10 カ所

- 基礎教育を受けられる子どもが少ない(就学率が低い、退学率が高い)
- 文具を購入する経済的余裕がない
- 食料が不足している
- 悪い衛生環境(給水設備が整っておらず、安全な水へのアクセスができず、子どもの健康状態に影響を及ぼしている)
- 立ち退きに直面している住民も少なくない

3. 他の援助機関の動向

(1)トロペアン・アンチャンスラム

1. 希望学校(韓国キリスト教団体): 幼稚園から小学校 4 年生までを対象に学校を開いている。しかし、改宗を目的としているため、教育の質は悪い。また、食料、衣服、本を配布し子どもに同団体運営の学校へ誘導している。現在、約 100 名が通っている。
2. PSE(フランスの NGO): 選出された 59 名の子どもへ毎朝 1,000 リエルの朝食費を支給。
3. ミッサムラン(ローカル NGO): 学校の休暇期間に、教室を利用して、補習事業の実施を支援。
4. クロサ・ユン(フランスの NGO): スラム内での保育所の支援を検討している

(2)貧困スラム 10 カ所

- 布教目的のキリスト教団体の支援

4. プロジェクトの必要性、妥当性

スラムにおける子どもの教育ニーズは非常に高い

- (1) 子ども達は教育を受けることを強く望んでいるにも関わらず、困窮した経済状況から学校に通うことができないでいる。
- (2) 子どもが教育へアクセスできる機会を増やすことが必要である。
- (3) 教育の質の悪さ、子どもの読書力の低さを見ても、教育支援の必要性は高い
- (4) 地域に根ざした移動図書館活動、学校図書館へのアクセスが必要である。
- (5) 他団体からの教育支援がほとんど見られない
- (6) ほぼ全てのスラムにはコミュニティセンターや図書室がない。
- (7) 初等教育のみならず、生計向上につながるライフスキルのような特別活動も必要である

5. SVA が取り組む意義

SVA の活動は、教育青年スポーツ省の政策、「万人のための教育」及び「万人が最低 9 学年を修了」の下で行われる。SVA は、スラムで生活している子どもたちの状況を見た。多くの子どもたちが貧困のために学校に通っ

ておらず、通っていたとしても毎日ではない。たまに学校に通っている子どもは、ごくわずかに字を読むことができるが、通っていない子どもは非識字である。そこで SVA は、図書館活動、とりわけ移動図書館活動を支援して、お話を聞き、絵本を読む機会を子どもたちに提供することを決定した。同時に、SVA は、子どもたちが公立の学校に通うよう促し、その方法を考える。移動図書館活動によって、わずかに字を読むことのできる子どもは、さらに読む能力を向上させ、字の読めない子どもは、お話と絵を楽しむことができる。

6. 対象地域、受益者数

- (1) トロペアン・アンチャンスラム
 - 1-1 直接受益者: 900 名
 - 1-2 間接受益者: 1,000 名
- (2) 貧困スラム 10 カ所
 - 2-1 直接受益者: 36,000 名
 - 2-2 間接受益者: 50,000 名

7. 実施期間

2009 年 1 月 1 日～2011 年 12 月 31 日
スラム事業課は、2010 年に JICA 事業が修了する際、図書館事業課に統合される予定である。

8. カウンターパートと持続可能性

- (1) カウンターパート
 - トロペアン・アンチャン小学校教員、学校委員、住民
- (2) 持続可能性
プロジェクトの持続可能性を考慮し、学校、学校委員会、スラム委員会と連携を深め、事業を展開している。スラム委員会と協力し、移動図書館活動を通じ、子どもたちの保護者に対して、教育の重要性を伝えていく。

9. 上位目標

スラムの全ての子どもが教育サービスにアクセスできる

10. プロジェクト目標

図書館活動がより促進される

指標

図書館活動に参加した子どもの数の増加

11. 成果

《成果》

- ① トロペアン・アンチャンスラム
 - ・ 小学校の図書館が整備される
- ② スラム 10 箇所
 - ・ より多くのスラムの子どもが絵本に接する機会が増える

指標

- ①-1 本の数が増加する
- ①-2 本棚の数が増加する
- ② 30%以上の学齢児童が移動図書館活動を受ける

12. 活動

- 1. トロペアン・アンチャンスラム (トロペアン・アンチャン小学校)
 - 1-1. 学校委員会、父兄との会議の開催
 - 1-2. 学校図書室へ絵本、本棚の提供
- 2. 貧困スラム 10 カ所
 - 2-1. スラム委員会、住民との会議の開催

- 2-2. 月2回の定期的な移動図書館活動の実施
- 2-3. 図書館活動を支援している他機関に対して、絵本と移動図書館を提供する

13. 実施体制

- (1) ボランティアスタッフ(トロペアン・アンチャンスラム)
 ・トロペアン・アンチャン小学校:校長 1名 教員 6名

- (2) SVA
 事業アドバイザー 手束耕治
 副調整員 ヘン・ソチェット
 移動図書館職員 サヴィ・ステラ
 セツ・ラニー
 ※必要に応じて図書館事業課がサポート

14. 年間スケジュール

- 2009 年 1 月 事業開始 住民、学校委員会、父兄との会議
 2 月 SVA バンコクへの3日間の研修旅行
 3 月
 4 月 クメール正月
 5 月
 6 月 国際子どもの権利の日
 7 月
 8 月 夏休み
 9 月 夏休み
 10 月 新学期開始 生徒登録
 11 月
 12 月

2010-2011 年は上記と同様

15. モニタリング・報告の方法

- (1) モニタリング
- 全ての活動地を月に 1 回訪問(移動図書館活動)、関係者との会議を不定期で開催
 - モニタリングフォームの制定
 - 全プロジェクトサイトへ年に 2 回の年度中間、最終モニタリングの実施
 - 生徒の出席に関しては教員からもフォローアップ
- (2) 報告書
- 月次報告書 副調整員が毎月 1 回作成
 - 年次報告書 副調整員が年に 1 回作成

16. 評価計画

- ・夏休みに入る前の授業終了時の7月末に、評価を実施する。
- ・評価フォームは 2 種類作成する。
 - ①ボランティアスタッフ、教員、住民へのインタビュー用
 - ②活動に関わる子ども用
- ・評価は量的、質的なものを含む(下記の9項目も含む)

- ① 移動図書館活動に参加している子どもの数
- ② 学校図書館を利用している子どもの数
- ③ 子どもの態度と習慣
- ④ 住民の参加度：コミュニティにおける自分の役割の認知度